

令和 7 年度 産業厚生委員会 行政視察

報告者 下竹芳郎

日時 : 令和 7 年 10 月 30 日 (木) 9 時半～
場所 : 鹿児島県指宿市 山川港
内容 : 漁港施設用地の有効活用について

今回の行政視察は、漁港つながりということで枕崎と同じ薩摩半島の東に位置する山川港と神奈川県にある特定第 3 種漁港の三崎港の視察を行った。

JR 指宿枕崎線の利用促進も兼ねて、まずは枕崎から JR に乗り込み山川に向かい指宿市役所山川庁舎で説明を受けた。山川は指宿との合併を機に、指宿地区に年間 300 万人近く観光客が訪れるが、その観光客を漁港がある山川地区に来てもらおうと、山川漁協を中心に海業の取り組みが始まった。令和 6 年 3 月には水産庁の海業の推進に取り組む地区に認定された。

山川漁協を最大限に活用し、老朽化した施設を解体・改修し、新たな直売施設を建設する計画、水揚げ場の空いたスペースを活用した BBQ 場の整備計画、漁船を利用したクルーズ体験など、現在漁協を中心に民間団体を巻き込んで議論が進んでいる。

その他、港湾代理店による豪華クルーズ船の誘致や防災重要拠点の整備も予定されていたり、漁業青年部もこの取り組みを理解し、漁業体験など海のアクティビティに寄与している。

これからの予定として、令和 7 年度 観光プログラム作成、令和 9 年度 加工場オープン、令和 10 年度 地域水産物普及施設オープン、令和 11 年度 大型駐車場、トイレ整備、令和 12 年度 漁具倉庫の一部改修など、海業に力を入れていることがわかる。

山川漁港の海業の取り組みを進める主体が、行政ではなく、漁協が中心になっている。市としても、様々なサポートにより伴走支援を行い、山川エリアの活性化、漁業者の所得向上、漁業担い手の確保、今後も大きな期待をしている。

今回、山川漁港を視察させてもらい、漁港活性化のため、漁協を中心に地元の民間の方が知恵を出し合い、一生懸命頑張っている姿が見て取れた。

山川港視察後、再び JR に乗り鹿児島中央駅まで行き、それからバスで鹿児島空港まで移動し、行政視察ではないが空港近くの今吉製茶を視察させていただいた。

今年はお茶の値段も高く、ここ今吉製茶は外国との取引も絶好調で円安にもとまらない売り上げも高く推移しているが、こうなる前から製茶機械等の投資を行い、30 人以上の雇用もある、そのうち 10 人が外国人の研修生と言うことである。

ここは 100 年以上続く老舗で 4 代目社長は来年に向け 10 億円規模の投資を行う予定だそうで、社長の常に前を向いて挑戦する熱意と行動力には恐れ入った。

日時：令和7年10月31日（金）13時30分～
場所：神奈川県三浦市 三崎港
内容：海業について

続いて視察に訪れたのは神奈川県三浦市三崎港である、ここ三浦市は大都市横浜の南部に位置する三浦半島の最南端で人口 38,000 人のマグロの水揚げで有名な、我が枕崎港と同じ全国で 13 港しかない特定第 3 種漁港の三崎港を有する港町である。

三崎港は「海業」発祥の地で昭和 60 年に当時の市長が使い始めた、海業とは海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する取り組みや事業のことである。三浦市は、市長からの特定事業を担うために平成 26 年 4 月に市長室を設置し 6 つの特定事業に取り組んでおり、その半分以上が港や海業に関することである。これらの事業を PPP（官民連携）の活用により実施・推進している。令和 6 年度からは組織上の組織上も市長管轄の組織としてより一層の機動力を確保。

海業プロジェクトとして「PPP で三浦市に憧れを創出する」のスローガンの元、多数の事業、取り組みを実施している。そのうちの 1 つで「三浦ランデブー」と題し富裕層をターゲットにして三崎港から見える富士山をバックにスーパーカーやクルーズ船を集めるといったイベントを仕掛けている。また新海業プロジェクトとして民間企業の力を借りリゾート開発と港をつなぐような事業も展開している。

その後、三浦市低温卸売市場を見せてもらい衛生管理された完全閉鎖型の施設で約 20 億円の総工費で平成 30 年完成している。ここは民間委託とかではなく完全に市が運営している。次に第 3 セクターで、株式会社三浦海業公社が運営するマグロと野菜の直売センター「うらりマルシェ」にも視察に行き、ここは 1 階が魚館、2 階が野菜館、そしてその中に市民ホールまである複合施設である。平日の昼間にも関わらずたくさんの人で賑わっていた。本市にも「枕崎お魚センター」と言う似たような施設がある。令和 6 年リニューアル後は好調をキープしているが、これを続けていくためには常に新しいことに挑戦していかなければならない。

今回、2 つの漁港を視察して感じた事は三崎港は首都圏にあり鉄道で都心まで 2 時間、羽田空港まで 1 時間半の場所にあり、全てにおいて高いポテンシャルを持っているが手を尽くさないと乗り遅れてしまう。三浦市では、そういう事もあり市長室のような専門分野にスペシャリストを置き仕事をして次の世代も育てている。山川港もそうだが行政だけでなく専門家を含めた民間が危機感を持ち綿密に計画し戦略を持って取り組み関係団体も一緒になり連携して活動している。

本土南端の枕崎港も特定第 3 種漁港として底知れぬポテンシャルを持ち合わせているので、もっといろんな分野で稼げる港にするために、まだまだ研究しなければいけない事が多々ありそうだ。